

昭和

写真の 1945-1989

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 第1部「オキュパイド・ジャパン(占領下の日本)」(昭和20年代) | 2007年5月12日～6月24日 |
| 第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」(昭和30・40年代パートⅠ) | 2007年6月30日～8月19日 |
| 第3部「高度成長期」(昭和30・40年代パートⅡ) | 2007年8月25日～10月14日 |
| 第4部「オイルショックからバブルへ」(昭和50年代以降) | 2007年10月20日～12月9日 |



東京・恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館 3階展示室

「昭和」展シリーズ、いよいよスタート！

第1部は、貧しくとも活気と希望にあふれていた昭和 20 年代

元号が「昭和」から「平成」に代わり、早くも20年近い年月が経っています。戦後、日本はさまざまな変化を遂げました。それは焼け野原からの復興であり、人びとの生活の変化でもあります。そのような様子を、写真家達はどの様に記録し、表現していったのでしょうか。

この4部作のシリーズ展は、昭和20年代のリアリズム写真から、昭和50年代の現代美術の世界にまたがる表現まで、2万3000点余におよぶ東京都写真美術館の収蔵作品の中から、選りすぐりの約600点で構成するものです。

■ 第1部 ■

「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和20年代）

開催期間：2007年5月12日（土）～6月24日（日）

1951年のサンフランシスコ講和条約まで日本が占領下に置かれていた時代、日本からの海外に出される輸出品などのラベルには「Occupied Japan」と記されています。この言葉に象徴される時代において戦争の惨禍の後に、新しく都市が形成され、人々の価値観も大きく変化していきました。そして、写真家たちも新しい価値観をもってこの時代を捉えたのです。展示は4つのパートで構成しています。

パート解説（展示解説より）

○ パート1 廃墟 — 焦土からの出発

広島・長崎の原爆投下も含めて、太平洋戦争末期の本土空襲は、全国の主要都市を焦土と化した。そして、昭和20年8月15日、戦争は日本の敗戦で終結した。その日の抜けるような青空の下に広がる風景は、過酷な廃墟としか言いようのないものだった。日本人は、その光景を前に茫然と立ちつくしながらも、この廃墟のような焦土こそが自分たちの現実であると受け入れることから再出発の決意をしたに違いない。そして写真家は、カメラを廃墟のような焦土に向けることによって、それこそが自らが生きるべき現実であると確信したはずだ。そして、そこに生きる日本人へ向けて、次なるシャッターを切るのであった。

○ パート2 オキュパイド・ジャパン — 闇市・P.X.・女性

戦争の終結は、それまで日本をささえてきた価値観を崩壊させた。と同時に始まった連合軍による、実質的にはアメリカによる占領は、日本に新しい現実をもたらした。混乱の中から生まれた闇市、日本人に豊かなアメリカを実感させた P.X.、男女平等による女性の社会進出などによって、都市部を中心に日本でもアメリカでもない、占領下の風景が作りだされてゆくのであった。日本の歴史が始まって以来初めてともいえる東西の文化の全面的な交流が生み出す現実の光と影を、写真家のまなざしはエネルギーに切り取ってゆくのである。

○ パート3 解放 — エロスとリアル

終戦による混乱と連合軍による占領は、軍国主義の下で抑圧されていた表現に自由をもたらすことになった。とくに「性」の解放は、それまで撤去と削除の歴史であったヌード写真の表現に新たな可能性をもたらしたといえる。また、国策宣伝の道具と化して社会の現実を直視することを忘れていた報道写真は、広範なアマチュア写真家を巻き込みながら勃興するリアリズム写真運動によって、現実への新たなまなざしを獲得してゆく。そこには、戦前において近代的写真表現が希求しながらも挫折した、写真の本質にもとづく自由な表現と社会性の復活が見て取れよう。

○ パート4 復興 — 「戦後」という風景

1951年9月8日サンフランシスコ講和会議により、対日平和条約と日米安全保障条約が締結され、翌年4月28日に条約が発行することにより、占領は終わり独立日本の歩みが始まる。終戦の混乱から復興への道は、東西冷戦構造の中、政治的にも経済的にもアメリカの傘下に入ることであった。それは見えない「占領」の始まりであり、それこそが「戦後」という新たな現実の始まりである。そして写真家たちは、終戦直後とは異なる問題意識を模索しながら、日本の現実を切り取り、「戦後」という時代の風景を創造してゆくのであった。

出品点数 125 点 (別添 3 ツ折の出品作品リストをご参照ください)

および雑誌資料

- ・アルス刊『カメラ』 - 戦後もっとも早く復刊した写真雑誌。リアリズム写真運動の舞台となった。
- ・朝日新聞社刊『アサヒカメラ』 - 総合的な写真ジャーナル。プロ写真家に撮影依頼する企画など、戦後写真の方途を示した。

< 出品作家 >

山端庸介、濱谷浩、林重男、林忠彦、大束元、師岡宏次、中村立行、笹本恒子、木村伊兵衛、園部澄、菊池俊吉、田村茂、福島菊次郎、大竹省二、樋口忠男、東松照明、稲村隆正、真継不二夫、杉山吉良、福田勝治、大辻清司、吉岡専造、三木淳、渡部雄吉ほか

(担当 : 金子 隆一)

戦争という重圧からの解放は、写真の世界にも新しい地平をもたらした。文学や美術の世界のように、写真家の戦争責任が直接に問われることはなかったが、彼らにとってそれは決してぬぐい去ることのできない歴史としてあったに違いない。自分の感情に、カメラとレンズの客観性に対して、そして現実に対して何よりも正直であろうとする態度がそのことを示していると言えはしないだろうか。

この新生日本の写真表現は、ジャーナリズムの復興を背景としてまず展開してゆく。『カメラ』『世界画報』『THE MASSES』などのグラフ雑誌が創刊され、カストリ雑誌と称された群小出版物がつぎつぎと現われ、それらは競って写真を使い、戦後日本の現実を伝え、抑圧されていたエロチシズムを解放してゆくのであった。

1950 年に『カメラ』の月例写真コンテストの審査員となった土門拳は、広範なアマチュア写真家を巻き込みながら「リアリズム写真運動」を展開する。社会の現実をストレートに見つめる態度を主張するリアリズム写真運動は、戦前の芸術写真がもっていた自然を詠嘆するような表現を「サロン写真」として排撃し、戦後という新しい時代に生きる人々に圧倒的に支持される。この運動を主導した土門や木村伊兵衛、さらにはこの運動を実質的に担っていった広範なアマチュア写真家たちは、戦中と戦後の写真をいかに断絶させるかという意識こそがシャッターを切る理由としてあったのではないだろうか。

1954 年 5 月、オットー・シュタイナートが主唱した「主観主義写真」が日本に紹介される。1930 年代に盛んに追求された「前衛写真」は、戦争で弾圧され、リアリズム写真運動の中で息をひそめていたが、そのアヴァンギャルドの写真表現は、関西のアマチュア写真家や大辻清司のように前衛美術運動との関わりのなかで途絶えることなく受け継がれていた。だが、戦後写真の大きな潮流を形成することはなかった。その自由な表現の方法と精神は、戦後になって写真を撮り始めた戦後世代の写真家たちの中にかたちを変えて受け継がれていったといえよう。

新潮社とんぼの本「昭和の風景」(2007 年 4 月 25 日発売)

戦後写真小史 — 「昭和」をとらえた写真家たち より抜粋

第2部～第4部の概要は下記をごらんください

■第2部■

「ヒーロー・ヒロインの時代」(昭和30年、40年代パートⅠ)

開催期間：2007年6月30日(土)～8月19日(日)

スポーツ選手から俳優、歌手、政治家まで、さまざまな煌めくヒーロー・ヒロインたちが活躍した昭和30～40年代。本展では、東京都写真美術館の2万3000点余の収蔵作品より、ポートレート写真というジャンルを通して、エネルギーに満ちあふれたヒーロー・ヒロインの姿を捉えた写真家たちをご紹介します。時代の顔というべきヒーロー・ヒロインの存在は、激動する昭和中期の熱い時代の空気を、ダイレクトに私たちに伝えてくれるでしょう。

<出品予定作家>

秋山庄太郎、石井幸之助、石元泰博、稲村隆正、大竹省二、小川隆之、木之下晃、繰上和美、齋藤康一、佐藤明、沢渡朔、篠山紀信、ジョージ・S・シンベル、高梨豊、立木義浩、中村正也、林忠彦、早田雄二、藤井秀樹、細江英公、松島進、松本徳彦、三木淳、ウィリアム・ユージン・スミスほか

(担当：鈴木 佳子)

■第3部■

「高度成長期」(昭和30年代、40年代パートⅡ)

開催期間：2007年8月25日(土)～10月14日(日)

昭和30年代は高度成長期時代を迎え、人びとの生活状況や都市の風景が急速に様変わりしていった。写真家の視点もリアリズム的に場景を捉える写真から、それぞれの作家の持つ主観をうつしだす情景へと変化し、コンポラ写真や自分の私生活を表現していく私写真など、より内的な世界を表出するような写真が現れてきた。

<出品予定作家>

荒木経惟、石元泰博、英伸三、川田喜久治、北井一夫、桑原史成、牛腸茂雄、小原健、園部澄、高梨豊、田沼武能、田村茂、田村彰英、常盤とよ子、内藤正敏、長野重一、奈良原一高、東松照明、深瀬昌久、細江英公、森山大道、柳沢信など

(担当：藤村 里美)

■第4部■

「オイルショックからバブルへ」(昭和50年代以降)

開催期間：2007年10月20日(土)～12月9日(日)

経済の低成長が恒常化し、戦後派世代が「ニューファミリー」と呼ばれ、世代構成の中心を担うようになった。ドキュメンタリー的な写真も、主観的な解釈を重視した写真から客観的に風景を写しだす写真に移行し、写真学科や写真学校出身者ではない人びとが写真を発表し、表現や展示方法などが従来のスタイルとは異なり、現代美術との境界が曖昧になっていった。

<出品予定作家>

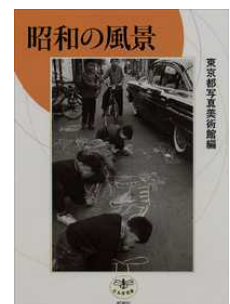
石内都、伊奈英次、大西みつぐ、尾仲浩二、小林のりお、雑賀雄二、柴田敏雄、島尾伸三、須田一政、築地仁、土田ヒロミ、橋口譲二、畠山直哉、宮本隆司、山内道雄、山崎博、渡辺兼人など

(担当：藤村 里美)

展覧会公式ガイドブック「昭和の風景」

展覧会開催に合わせ、新潮社「とんぼの本」シリーズから「昭和の風景」が発売中です。展覧会の主要作品を網羅し、その時代背景や写真史的な位置づけを担当学芸員がやさしく解説した、公式ガイドブック写真集です。好評発売中！<税込2100円>

A5版208ページ(図版掲載数 約160点)



< 開催概要 >

展覧会名称	「昭和」写真の1945 - 1989
主 催	東京都、東京都写真美術館
開催期間	第1部「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和20年代） 2007年5月12日（土）～6月24日（日） 第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」（昭和30・40年代パートⅠ） 2007年6月30日（土）～8月19日（日） 第3部「高度成長期」（昭和30・40年代 パートⅡ） 2007年8月25日（土）～10月14日（日） 第4部「オイルショックからバブルへ」（昭和50年代以降） 2007年10月20日（土）～12月9日（日）
休館日	毎週月曜日（ただし月曜が祝祭日の場合は翌日）
観覧料	一般500（400）円、学生400（320）円、 中高生・65歳以上250（200）円 （ ）内は20名以上の団体料金。 小学生以下、障害をお持ちの方と その介護者は無料。 第3水曜日は、65歳以上無料。
開館時間	10：00～18：00（木・金は20：00） 入館は閉館の30分前迄

展覧会関連：連続講座『昭和の写真史』開催！

- 第1回：6月15日（金）「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和20年代）
- 第2回：8月10日（金）「ヒーロー・ヒロインの時代」（昭和30・40年代パートⅠ）
- 第3回：9月14日（金）「高度成長期」（昭和30・40年代 パートⅡ）
- 第4回：10月26日（金）「オイルショックからバブルへ」（昭和50年代以降）

受講料：各回とも無料（この講座では、新潮社『昭和の風景』を副読本として使用します。お持ちでない方の受講には、資料代2,100円（税込み）が必要となります。）

会 場：東京都写真美術館 1階アトリエ 定員：40名（当日先着順、各回とも18:00から受付開始）

< お問い合わせ先 >

東京都写真美術館 事業企画課企画係 金子 隆一 r.kaneko@syabi.com（第1部担当）
鈴木 佳子 y.suzuki@syabi.com（第2部担当）
藤村 里美 s.fujimura@syabi.com（第3・4部担当）
事業企画課普及係 久代 明子 a.kushiro@syabi.com（広報担当）
伊藤 洋子 y.ito@syabi.com（広報担当）

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

< 次項の図版は第1部「オキュパイド・ジャパン」の出品作品図版です >

図版をデータにてご用意しています。広報担当までお申し出ください。

1. 笹本恒子「銀座4丁目 P.X.」シリーズ「昭和・あの時・あの人」1946年夏頃
2. 田村茂「浮浪児」1946年
3. 林忠彦「太宰治」1946年
4. 笹本恒子「米軍専用車」シリーズ「昭和・あの時・あの人」1946年
5. 林忠彦「復員兵（品川駅）」1946年
6. 中村立行「白衣の勇士」1954年
7. 山端庸介 防空壕に避難して助かった女性、長崎、1945年8月10日
8. 三木淳「血のメーデー、警官隊とデモ隊の乱闘」1952年
9. 真継不二夫「裸婦」シリーズ「美の生態Ⅱ」より 1951年
10. 木村伊兵衛「東京裁判」1948年
11. 園部澄「新宿聚楽前・新宿区」1951年

< 掲載に際してのご注意 > 1. 図版はトリミングできません。 2. 図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください。 3. 掲載前にグラを拝見させていただきますようお願い申し上げます。 4. お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます。 5. 作品図版は実際の展示と異なる場合があります。 6. 掲載紙をご寄贈いただきますようお願い申し上げます。



1



2



3

第1部 オキュパイド・ジャパン(占領下の日本)より プレス用図版



4



5



6



7



8



9



10



11